

# 雲南市立鍋山小学校だより

## 3月号

な かよく へん きょう  
や るき まっしぐら



平成31年3月15日発行  
校長 別所 久美子

6名の子どもたち、保護者・ご家族の皆様

**ご卒業 おめでとうございます。**



平成25年4月入学（7名）

大きくなりました。

入学から卒業まで1,200日の登校日がありました。多くの方々に支えられた毎日でした。身体も心も大きくなって、6名は、羽ばたきます。しかし、決して一人で大きくなったわけではありません。これまでかかわってくださった方々に感謝いたします。



平成31年3月卒業

19日（火）の卒業式では、6名のなべっ子が巣立ちます。保護者、地域の皆様の温かいご支援とご協力をいただき、子どもたちは様々な体験と出会いを通して、大きく成長しました。

みんなで6名の卒業生の幸多き前途を祈りたいと思います。

**おめでとう！ ありがとう！ 6名の卒業生。**

鍋山小学校は、児童数51名の小規模校です。ですから、何をやるうえでも、一人一人の活動量が大きいことを強みとして捉え、活かしています。卒業生は、班長、委員長、色長等の「長」の活動を全員で担ってきました。

また6名の子どもたちは、鍋山小学校初めての複式学級を3年生～6年生までの4年間経験しました。同じ教室内で上学年とともに学習し、優しくされたこと、上学年を見て真似たこと、また反対に、自分たちが上学年になった時には、下学年の手本となるように自覚しがんばったこと等、本校ならではの学校生活を送ってきました。

とりわけ30年度は、「主体的集団になる」という学級の目標をかかげ、活動ごとにめあてを確認、自分たちで方法を考え、自分たちで行動するように努めていました。そして、活動終了時には、「成長ノート」に自分の成長についてふりかえり、できたこと・伸びたことを自覚し、足りなかったことについても次の活動の課題として意識しました。また、6名の子どもたちは休み時間になると、下学年と手をつないでおにごっこをしたり、幼稚園の子どもをだっこしたり、穏やかに優しく接してくれました。

4月からは大きな集団の仲間入りです。たくさんの友だちとの出会いが待っています。

三刀屋中学校では、新入生62名となります。新しい環境の中でも鍋山小学校での学びを土台にして、中学校生活を送ってほしいと願っています。一人一人の夢に向かって一步一步、歩いていきますように、教職員一同、見守っていききたいと思います。

**自分の力を積み重ねていこう。  
ひとつひとつ 1時間1時間 1日1日・・・①**

**2月20日(水)  
3・4年生 朗読発表会**



3年生 笑い話 詩の暗唱  
4年生 百人一首 詩の群読

各学級2回ずつ音読(暗唱)・朗読発表の経験を積み重ね、最近では表現の工夫も凝らし、この1年間で子どもたちが表現自体を楽しんでいる姿を感じ取ることができました。また、発表後の感想交流の内容も変わってきました。聞き手側に視点をもたせ、自分の体験と重ねながら、あるいは、これから自分も・・・したい、真似したいという気持ちを感想内容をもって全校児童の前で発表をすることができるようになってきました。

**2月21日(木) - 2年生 -  
生活科「できたよ発表会」**



**2月21日(木) - 全校児童 -  
なわとび大会**



2年生の「できたよ発表会」では、これまでの学習や練習の結果、できてうれしかったことを1つ選び、保護者・ご家族様の前で発表しました。お手玉遊び、コマ回し、ピアノ演奏、縄跳び・・・等、できて嬉しかったことがたくさんあったようです。

上の写真は、「画数の多い自分の名前が書けるようになった」ことが嬉しくて、みんなの前で書いている様子です。友だちのがんばりを認めながら発表していく様子に子どもたちの温かさを感じました。

毎年恒例の縄跳び大会をしました。持久跳び、各技跳び、なかよし班対抗長縄跳び等、たくさんの種目練習をしてきました。その成果を発揮しようと子どもたちは、張り切って挑戦しました。

高学年児童の「すご技」の披露場面も盛り上がりました。子どものもつ可能性に脱帽です。

**3月1日(金) - 全校児童 -  
サンキューフェスタ**



5年生の企画により、在校生が協力して運営する「サンキューフェスタ」を行いました。6年生に対する感謝の気持ちを歌や言葉、出し物、掲示物で表現しました。

6年生も「6人でもできる」ところを見せようと、ダンスパフォーマンスを見せてくれました。6人のとても愉快な一面を表し、会場は笑い感動に包まれました。

鍋山小学校最高！と感じるひとときでした。

## 地域とともに歩む・創る



「いじめをするとどうなるか」

ビデオ視聴20分



**2月20日(水) 人権教室 ー全校児童ー**  
**人権擁護委員 片寄 邦良 様 崎山 隆子 様をお招き**  
**しました。**

全国的に見ても後を絶たない、いじめ。本校でも「いじめは、起こりうる」というスタンスで毎日指導に当たっています。子どもたちの成長、学力保障にとって、安心・安全な学校環境が重要です。そのために、教職員の気づき、一人一人の心の居場所がある学級集団づくり、子どもたちが相談しやすい関係性づくりに努めています。

20日には、人権擁護委員さんを2名お招きし「人権教室」を開きました。ビデオ映像視聴のあと、各教室で感想交流を行い、「自分は今後、どう生きるか」について自分と向き合う時間をつくりました。

児童のふりかえり（感想用紙から抜粋）です。

※いじめをされたら大人の人に言うことを忘れないようにしたいです。私も絶対いじめはしないことにします。もしもいじめをしていたらやられた人が亡くなるかもしれないので、いじめは絶対しません。そのことを覚えておいていじめられている子を見つけたら先生に言ったらいいと思います。（低学年）

※いじめは、絶対いけないと思いました。なぜかというといじめをしたら友だちがいなくなるからです。そして、いじめを受けているときに親に声をかけられたとき「大丈夫」と言ってもそをついたらいけないと思いました。だから、いじめや暴力を受けたらすぐに大人の人に言いたいです。（中学年）

※いじめられたときは、大人に話した方がいいと分かりました。他の人がいじめられていてそれを助けなかったら自分もいじめていることと一緒にことだと分かりました。遊びでからかったら人の命が亡くなってしまうので、いじめを見た人が先生に知らせてあげるとか、早めに自分から言ったら死ぬ人もいなくなると思いました。いじめは悪いことだと思います。（高学年）

いじめを見て見ぬ振りをするのはいじめていると同じ、いじめで命を失うこともある、いじめを一人で解決しようとするしない等、いじめの深刻化を防止するうえで大切なことを子どもたちも学び取ってくれました。

**2月12日(火) 乙加宮 景山孝三様 裕美様宅で**  
**2月26日(火) 卒業制作 木彫り体験**  
**ー6年生ー**

**2月14日(木) 学校評議員会開催**  
**5名の学校評議員様に、授業公開後、30年度の学校経営についてご意見を賜りました。**



くすのきを素材にして、卒業前の自分の気持ちを表す言葉を、景山様に彫っていただきました。その周りの装飾部分は子どもたちの担当です。思いのこもった卒業記念品（制作）へ満足感をいっぱい感じて帰りました。



環境整備や古紙回収の仕方などにおいて、地域住民が学校に協力できることがもっとあるのではという温かいお言葉を頂戴しました。ありがとうございました。

**自分の力を積み重ねていこう。**  
**ひとつひとつ 1時間1時間 1日1日・・・②**

— 島根県学力調査結果より —

平成30年12月11日実施

調査対象：5・6年生 調査教科等：国語、算数、意識調査

この県調査は、今年度1年間に身につけるべき学力の実態を測り、教員の指導力向上・改善に役立てようとするものです。

合わせて、4月に行われた全国学力・学習状況調査（6年生対象）の結果を受けて、授業改善への成果が図られたかどうかを把握し、子どもたちへの指導改善に活かすねらいもあります。

さて、本校では次のような傾向が見られました。

【意識調査では】

- ①国語、算数、外国語への関心・意欲が高い。
- ②総合的な学習の時間に、意欲的に取り組んでいる。
- ③学校生活に満足しており、自己肯定感・自己有用感も高い。

特に③は、全ての学習の基盤となり、受容的な学習環境の中で、子どもたちの学習意欲が育まれてきたことを表しています。

【国語科では】

- ①問いに対する無回答がない。粘り強く問いに解答しようという姿勢がある。
- ②「漢字」や「書くこと」への定着が見られる。
- ③発言の意図を捉えることができる（話す・聞く）。
- ④ローマ字の定着。

これらのことから、家庭学習の習慣化と相まって、基礎・基本的な学習が身につけていることを表しています。

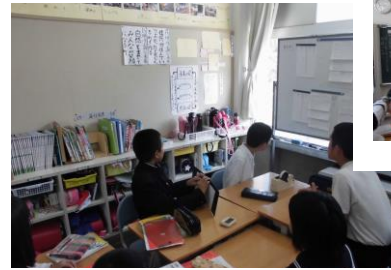
一方、課題として、目的に応じて、複数の文章を比べ、表現の違いに着目して読むことが挙げられます。

その要因としては、初見文章に向き合い、内容を読解したり、筆者の意図を把握したり要約したりする力の育成に指導者側の課題があるということです。

【算数科では】

- ①基礎的な計算技能の定着（小数の加減乗除、分数の加減）。
- ②図形についての技能の定着（展開図の組み立て、体積など）。

これらのことから国語科と同様、授業→復習、あるいは予習→授業の反復学習により、基礎・基本的な学力が身につけていることが言えます。



一方課題として、数字の構成の理解（位の把握、角度の大きさ、合同条件）や図形の定義（台形とは、平行四辺形とは）、小さい数の乗・除法の意味理解等が挙げられます。

以上、5・6年生全体の傾向です。

しかし、これらの成果と課題は、全ての教職員が共有すべきものであり、この結果をもとに新年度の指導の重点についても話し合いました。



①30年度に引き続き、全ての教育活動において「表現力向上」に取り組みます。

②各教科では、基礎・基本の徹底を図ります。

③学習内容の系統性を意識して、指導します。

④それぞれの教科で、意図を明確にした文章を書く経験を重ねていきます。

保護者の皆様におかれましては、生活習慣が整うように引き続きご家庭でのご支援を賜りたく思います。

地域の皆様におかれましては、子どもたちの活動の場の提供やそれぞれの場での温かなご指導・ご支援をお願いしたいと思います。

最後になりましたが、今年度1年間、鍋山小学校の教育活動に対しまして、皆様のご理解とご協力を賜りましてありがとうございました。新年度も変わりませずよろしくお願い申し上げます。また、3月11日には、「雲南地区交通安全協会鍋山支部」様より交通安全の啓発に役立ててほしいとご寄付も頂戴しております。ありがとうございました。新年度も、子どもたちみんなが安全に、元気に登校できるよう教職員一同精進して参ります。

なお、これまでの本便りで「殿河内（地区）」を「殿垣内」と表記している部分があり、ご迷惑をおかけしました。





あ